

## 論文審査の結果の要旨

平成30年2月20日

申請者：王 寒笑

論文題目：村上春樹における〈他者〉—中国表象と女性表象を中心に

王寒笑博士論文「村上春樹における〈他者〉——中国表象と女性表象」は村上春樹における〈他者〉の問題を、中国と女性という他者性に焦点をあて、ジェンダー批評、ポストコロニアル批評などの方法を援用して、先行研究の未解明部分に光をあて、新たな問題提起を行った論文である。本論に入る前にアマルティア・センなどの理論を引きつつ〈他者〉と何かについて、その起源から説明を試みている点は評価できる。本論では、特に二部構成のうちの第一部「中国表象」については、在日中国人に注目し、初期三部作の在日中国人Jの複合的アイデンティティの可能性に言及し、『中国行のスロウボート』では在日の困難性や羊を中心に中国と近代日本の暴力性へ言及するなど、従来の村上と中国の関係の理解を刷新する可能性を示している。特に『中国行きのスロウボート』における3人の中国人、及び、『風の歌を聴け』におけるジェイの分析から、各々「自身の中の他者」、「多面的な他者」という概念を引き出し得たことは、この論文の成果と言える。

第二部は『1Q84』論での女性表象の性的他者の分析を試み、斬新な指摘があるものの、「女性」に関する表象の分析が雑になってしまったことと、文章表現の点で全体的に意味の通りにくい箇所が見られたことが惜まれる。今後は、民俗学的視点や山姥表象など本論文でとり上げた視点をさらに深く追求し、女性表象の分析を精緻に行っていくことが期待される。

口述審査においては、主査、副査から村上の他者表象の分析を試みた意欲的な論文、作品論としても興味深い展開であるとの評価が出された。このような基本的な評価を前提に、第一部の完成度に比して、第二部の分析が若干粗いのでさらに追究してほしいとの要望が出された。また注の付け方などの指摘が出され、すぐ訂正することで了承を得た。王氏は問題点の修正にも意欲的に取り組むことを明言しており、今後に期待がもてる印象であった。全体として、審査委員の質問・指摘に積極的な姿勢で的確に応答した。口述試験内容は十分なものであり、合格と判定される。

以上のように、本論文は、若干の課題は残しつつも村上春樹研究に新たな視野と検討を加えた論文として、学位授与にふさわしいとの評価を与えたい。

主査： 人文科学研究科 芳賀 浩一

副査： 人文科学研究科 北田 幸恵

副査： 人文科学研究科 小林 富久子